



「醤油の味比べ」
(P 6 なんちゃって農業女子)



- 🍴 言いたい放題！アッキー28号 (69)
『解散転じて、新生！ 親の会』
- 🍴 ガザと祝園に、ここから声をあげたい！！
- 🍴 原発賠償関西訴訟第52回期日の報告
- 🍴 東京訴訟第2陣のご報告
- 🍴 今月の五行歌
- 🍴 なんちゃって農業女子(44)
- 🍴 一万六千歩の旅 (「叢」22号より)
- 🍴 イベント紹介/会計報告/編集後記

「LIP編集局」

<https://love-dugong.net/lip/>

連絡先

メールアドレス: lip@love-dugong.net

TEL: 070-5653-6913 (18時以降)



これまで何度かここにも書いてきたが、私たちは地元でちいさな親の会の活動を行っている。そもそもの始まりは今29歳の上の子が小学5年生のとき。自閉症という障害を持つ彼が養護学校小学部(当時)から4年で地域の小学校に転校して後放課後利用していた留守家庭児童会が5年で卒室となった(※注)ため、障害児の放課後保育の活動をしたいと、団体を立ち上げたのだった。その前に一度地域の小学校養護学級(当時)や養護学校のお友だちのお母さん数名でお茶会をやったことがあり、そのときのひとたちに会員となってもらい、NPOセンター(当時)に団体登録することができた。ところが障害児の放課後保育を必要としているおうちが近隣にはうち以外にはなかった。そこでその頃出会った他校区のお母さんや、支援者と一緒に、翌年から月一度、出入り自由の交流会を開くようになった。

それから延々19年。会場は、自宅近くの廃校になった小学校のプレハブ教室から市中部の福祉会館へ、8年前から交流会の開催は毎月開催となったが、コロナ禍にはZoomやLINEを使ってリモート交流会を開催。また、交流会と並行して、算数教室や音楽ワークショップ、「高校問題を考える」連続シンポジウムの開催や小冊子の発行、最近は成年後見や、8050問題についてのお話し会など、会に集うひとたちのそのときの課題解決に役立つような企画を、助成金を得て実行してきた。

そうして、今、小学生だった「我が子」は成人し、いちばん上は30歳。学校での「お困り

言いたい放題! アッキー28号 (69)

解散転じて、新生! 親の会

ごと」はなくなったけれど、社会のなかで、生活面で、どうしようかと迷うことは多々ある。これは一生続くかなあ……。

「それでも緊急課題はなくなったよね」と長年かわり、毎回交流会で未来を見据えた助言をしてきてくれた支援者の

「先生。『そろそろ親の役割も『卒業』しよう。年に一度同窓会を開くことにして、この会を閉じたら?』ええっ、そうなの?」

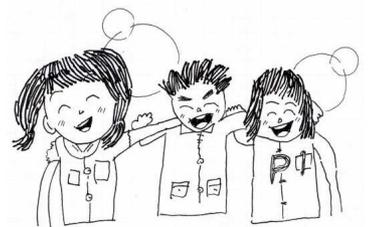
これまで若い現役世代のママたちとつながりたい、この会を利用し活用してほしいと願って、いろいろ試みはしてきた。確かにそれで少しはゆるくつながることでもできたかと思うけど「私たちのこれからのために、この会がどうしても必要!」と若いママたちから言われることはついになかった。

そうかく。「卒業」も大切だよね。というわけで、ここ半年あまり、「卒業」に向けて心の準備。隔月の交流会でもやんわり「卒業」について言及してきた。

「でもでも、5月まではやろうよ。そしたら、『足かけ20年』の活動になるから」って、これは代表のわがままで。

そうして迎えた、2月半ばの「最後から2番目」の交流会。「今年度で最後」と思った方もいらしたようで、半年ぶり2年ぶり参加の方、「お母さんと一緒に僕も」の参加も3組、初参加の方も。すごい、盛会やん!

「これからも続けたい。私が引き継ぎます」



とそれまでに宣言してくれた方が実はいたのだけれど、福祉会館の登録団体の継続には、年に6回の活動が必須。「3カ月に一度なら」とその方からは聞いていたので、6回は無理だよねと私は思っていた。

予想通り、「年に6回ですかあ。それは厳しい」とその方。「でも、続けたい」「続けて欲しい」「ファミレスで集まったら?」いろんな意見が出たところで、「では、回り持ちで年に1回、当番を決めて、福祉会館の部屋を開けるところから閉めるところまで、責任を持って担当することにしたら?」とI先生。「やります!」「年に一回なら私もできる」。次々手が挙がり、活動継続が決定。

領収書の保存や収支報告が求められる助成金の申請はやめて、500円の年会費をおさめ、それを福祉会館の部屋代にあてよう、交流会は当番の人の都合のよい日に設定する、団体登録の申請等はこれまで通り代表が担当する等々必要なことを決めていき、「会費の徴収等会計は引き受けます!」と手を挙げてくれた人がいて、オールOK。

「解散のはずが、全員参加の活動継続なんて!」「すごいよね」。思わぬうれしい驚きです。新生・親の会、20年目の5月から装いをちょっと改め、活動開始です。乞うご期待! なんかやっぺ。

(※注) 現在では、小学校卒業時まで利用できる。

(著者プロフィール) パート勤務の主婦。自閉症を持つ成人した息子がいます。

放課後クラブ『チャレンジ・キッズ』代表
<https://ameblo.jp/challengekids81573/>

ガザと祝園に、ここから声をあげたい！！

遠い遠いガザで 殺されていく子どもがいる

わたしたちから見れば中東は遠いところです。毎日、毎日、新聞やテレビやネットで、ガザで暮らす何の罪もない子どもたちや女性やお年寄りが殺されていく姿が映し出されています。どうしてこんなことが許されるの？もう見たくない！きっとそう思っている人も多いのではないのでしょうか。いったいわたしたちに何ができるのでしょうか。

イスラエルとパレスチナの間で一体何が起きているのか？気になりながらも、日々の暮らしの中でしなければならぬことがいっぱい、なかなかそのことに時間がさけずにいます。ジェノサイドや戦争はもちろん反対ですが、じゃあ、日本にいるわたしたちに何ができるのか？知ること、声をあげることから始めてみませんか。

近い近い京都・祝園で 戦争の準備が進んでいる

枚方・交野から車を走らせれば30分足らずのところ、関西学研都市の隣に陸上自衛隊祝園分屯地があります。ご存知でした？わたしはちっとも知りませんでした。その祝園分屯地に300億円近い税金をかけて本州で一番大きい弾薬庫が増設されようとしています。

いったい祝園弾薬庫に、何が保管されるので

- ◆とき 4月15日(火) 10時～
- ◆ところ 梅が枝公園
(京阪交野線「郡津」下車5分)
- 10時～10時30分 アピールタイム
- 10時35分～11時 parade(交野市駅前まで)
- 11時～交野市駅前にて、住民説明会を求める署名活動
- ◆主催 ガザ・祝園交野アクション

しょうか？防衛省は住民に説明会すら開いていませんが、もっぱらミサイルが保管されると言われています。もしも、事故が起こったら？もしも、戦争になったら？標的になることはまちがいありません。ここからミサイルが発射されれば？子どもたちを殺すことに繋がりがねません。殺すのも殺されるのもごめんです。

ここで、声をあげてみませんか？
ここから、はじめてみませんか？
戦争はいやだ
殺されたくない！殺したくない！
戦争を止めよう

プラカード（主催者でも準備しますが、自前のものがあればお持ちください）、鳴り物などグッズを持ち寄り、市民に広くガザジェノサイド No！ミサイル弾薬庫増設するな、戦争ごめん！戦争の危機と人権侵害をアピールしたいと思います。

※4月23日(水) ガザ・祝園写真パネル展にもどうぞお越しください。

(文 憲法とくらしを考える会・志水博子)

ガザ・祝園写真パネル展

- ◆とき 4月23日(水) 午前10:00～16:00
- ◆ところ 交野市立青年の家 学びの館

ガザ・パレスチナの歴史と現在の写真と、祝園ミサイル弾薬庫の写真パネルを展示します。またとない機会です。是非お越しください。

「人の命」と「健康」と「ふつうの人間らしい暮らし」を求める裁判 ～原発賠償関西訴訟第 52 回期日の報告～

3月6日(木)大阪地方裁判所で原発賠償関西訴訟第52回期日が開かれました。この裁判は、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故で関西に避難してきた人たちが国と東京電力(以下、東電)に対して起こしたものです。

原告本人尋問第14回のこの日の期日は大法廷で行われ、傍聴席はほぼ埋まりました。3・11を前にしての期日ということで、在阪テレビ2局の取材でビデオも入りました。

法廷では、午前中2人、午後は3人、事故発生時各々宮城県亘理(わたり)郡、福島県の伊達市や郡山市、千葉県柏市に住んでいた5人の原告が証言台に立ちました。

中国出身で結婚して来日、授かった2人の子を大切に育てようとしてきたと語る原告は、避難による二重生活で経済的に苦しみ、結局離婚することになりました。伊達市に住んでいた原告は、馬術競技の元日本代表。小さい頃から馬術に親しみ、国内外の競技会で活躍、乗馬クラブを経営していましたが、原発事故の影響で乗馬クラブの移転を余儀なくされ、結果的に廃業することになり、選手生命も絶たれました。「東京オリンピックをととても悔しい思いで観ていました」という原告の言葉を聞いて、馬術の「星」を日本は失ったのだと思いました。

それぞれの人にそれぞれの生活があり、それぞれに異なるけれど、「もしも原発事故がなければ……」、喪われた故郷や、生業、家族の絆に関して苦しんだということは共通しています。シングルマザーで3人の子を育てている原告は、小学校から子どもたちに身につけるガラスバッジの線量計が配られたのを見て、「こんな怖ろしいところに住んではいけない!」と恐怖を感じました。母子で避難した結果として、それまでの仕事を失い、新たに得た仕事の量はかなり増え、子どもと向き合う時間はほとんどなくなった、子どもたちは私に協力してくれる、でも疲れやすくなった、甲状腺の検査を受けているが、のう胞がだんだん大きくなって手術が必要になるのではないかととても心配だと尋問に答え、現状を語ります。「強制避難区域に指定された土地からの避難ではない、『自主避難した』と言われますが、私たちは避難したくて避難したわけじゃない。私の



サポーターも共に「国の責任」を訴える

場合は、子どもを守るため、自分の健康を守るために、避難したのです。避難を決意したのは、あの線量計です。わかってください」と訴えました。

2人の子と共に母子避難した原告は、事故前に住んでいた我が家を懐かしみます。近くにコミセンがあり子育てしながら地域に密着し、PTAの活動でも仲間がたくさんいた、子どもたちも自然のなかでのびのび育ちたくさんの習いごとをして楽しんでいた、「ずっとそこに住むつもりだった」と。しかし、高台のいちばん上にあり雑木林に隣接する自宅の庭や側溝の線量を測ると、とても高い数値で、子の小学校の終業式が終わるのを待ち、関西の実家に避難。定年まであと数年の夫は家にとどまり、二重生活。毎日遅くまで仕事をして食事は夜中という生活を続けた夫は、やがて心筋梗塞で倒れ、一命はとりとめたものの……。涙で声を詰まらせながら、なおも続ける原告。傍聴席の人々もハンカチを目に当てていました。「うれしいときも悲しいときも家族一緒にといい、結婚当初描いた未来と全く違う現実になりました」とうなだれる原告。「それでも避難を継続します。土地が汚されたところで、生活できない」。今この現実に生きる決意を語りました。

お昼の休憩時と夕方閉廷後にはミニ報告集会が行われ、尋問に立った原告や代理人弁護士の報告や感想や、各地から応援に駆け付けた類似訴訟の原告やサポーターからの応援メッセージなどを聞きました。

次回第53回期日は、4月23日(水)午前11時から、大阪地方裁判所大法廷で。これまでより1時間遅い開廷となります。

(文・豊高明枝/ 写真・関西サポーター)

栃木県那須塩原から、放射能汚染地帯で生活をする苦痛を訴える ～東京訴訟第2陣のご報告～

ミニ報告集会で発言された、福島原発被害東京訴訟の原告の柴田和明さんに連絡を取ると、詳しくメールで訴訟のことを教えてくださいました。了解を得て、メールの文章を紹介させていただきます。

まさかの汚染。「他人事」が「自分事」に……。

今までの裁判はふるさとが放射能汚染地帯となり避難をされている方ばかりです。もちろん避難するのが一番正しい選択だと私も思っています。私の裁判は、避難をせず放射能汚染地帯で生活をする苦痛をいかに訴えるかが今までの裁判と大きく違います。

私たちは原発事故当初、テレビや新聞などでは栃木県が原発事故による放射能汚染地帯だとは知らされておらず、数ヶ月間無防備で生活をしてしまいました。「福島の方たちは大変だなあ」と他人事でした。

ですから、私だけでなく栃木県北部の那須町や那須塩原市から避難をした方は少ないと思います。

原発事故発生から約3ヶ月後の2011年夏に栃木県北部も放射能汚染地帯だと知りました。その時に那須在住の科学者、「非電化工房」の藤村靖之先生の呼びかけで、地域の住民と連携を取り避難をせず、放射能を学び、放射能測定し自ら除染しながら放射能汚染地帯で放射能と上手に付き合いながら生活をしていこうと団結しました。

那須町4グループ、那須塩原市4グループ、8グループに分け徹底的に放射能測定をして、どこが危険箇所なのか定期的に情報交換をしながら生活しています。

そこで子供たちの通学路もどこがホットスポットなのか測定もしました。子供は身長が低いのでベビーカーの上に放射能測定器を載せ測定をしました。

「那須希望の砦」という放射能測定所を立ち上げ、空間線量だけでなく、食品の放射能汚染も測定し、栃木県産の食品の放射能汚染の情報の発信もしています。

原発事故の恐ろしさを伝えなくては……。福井の老朽原発も、とても危険！

今回の原発事故を通して、放射能汚染地帯で住む難しさも経験しました。同時に原発事故がどれだけ恐ろしい事なのかは誰よりも知っているつもりです。そこで原発事故の恐ろしさを多くの方に

知ってもらおう活動も始めました。

テレビや新聞では報道されませんが、福島第一原発の廃炉は100年から300年ぐらいかかると思います。もしかしたら廃炉はできないかもしれません。

ということは福島第一原発の電気を使っていた私たちの世代では廃炉ができないのです。子供たちや孫、この先の見たことがない子供たちが廃炉作業をするこ



ミニ報告集会で、福島原発被害東京訴訟第2陣について語る、原告の柴田和明さん（右端）。柴田さん夫婦は脱サラ後栃木県那須塩原で農業を始めました。そこに原発事故発生。汚染された土地に住み続け、その地から被害の賠償を求める裁判を起こしました。

とになります。

これは私の考え方ですが、原発を動かすのを決めるのはお先短い政治家や専門家が決めるのではなく今の原発の現状を理解して若者が決めて欲しいと願っています。

老朽化した福井の原発は本当に危険だと思います。先週3月15日にも原発についてのお話会を実施しました。是非大阪の方にもお話を聞いて頂き、事故を起こす前に福井の原発を市民の力で止めたいと願っています。

(文・福島原発被害東京訴訟第2陣原告・柴田和明/
写真・豊高明枝)

LOOPが選ぶ

今月の五行歌

浮遊

なに 終活のために
断捨離だって

アホぬかせ

明日からの

飛躍のためさ

四畳半のマイルーム

机代わりの段ボール箱一個

マグカップと文庫本

ラジカセのシテイポップに

胸弾ませた春は遙か

暗闇に張りつめた

空気を破る

14番目の月

世界を照らす

希望の光になれ

さなぎ

ちえこ

五行歌(ごぎょうか)とは……五行で書く短い詩。字数や季語などの制限はなく、自分のおもったこと、感じたことを、そのまま言葉にして書きます。枚方では、五行歌ひらかた歌会が、8月を除き月一度歌会を行っています。
(連絡先: akkie.toyotaka@gmail.com
または 090-5893-5635・豊高)

No.44

なんちゃって農業女子(笑)

「暑さ寒さも彼岸まで」と、昔の人はうまいこと言ったもので、春のお彼岸過ぎたとたんに「夏日か？」と思うぐらい暑かったりしていますね。みなさんも、体調を崩されてはいませんか??暖くなった途端に「花粉や黄砂」外出するのが怖くなる様な状況が続いておりますよね。花粉症の私には辛い……。

なのに、私は今回も先月に引き続き高槻にある『テマヒマ』というカフェに出かけて「醤油作り」の勉強をしてきましたので、今回は「醤油作り」の報告をします。写真①は『テマヒマ』のカフェメニューにある、「発芽玄米餅のぜんざい」です。前回にもご報告しましたが、『テマヒマ』は、民藝と発酵をモノサシに食を通して暮らしの豊かさを提案する古民家セレクトショップ&カフェです。お勉強の前に「ぜんざい」食べて、少しまったりさせていただきました。(笑)

写真②は「しょうゆのお話し」です。この日は7人参加で座学「しょうゆとは…」醤油という漢字の「醬」は、肉を意味する文字や酒を意味する文字の組み合わせで、「かめの中に肉を入れて、麴と塩を加え、酒を入れ、密封して貯蔵」肉と酒を組み合わせでその意味を表したものです。「醬」は「ひしお」とも読みます。肉醬が塩辛とか魚醬。草醬が漬物。穀醬が味噌・醤油。醤油の材料や醤油作りの様子など醤油について知らなかった色々な事を教わりました。

座学の後は「醤油の味比べ」醤油は「濃口」「淡口」「たまり」「再仕込み」「白」の5種類があり、香り

の成分は……ナント300種類あるそうです。香り楽しみながら試飲。豆腐に垂らしながら味比べ。写真③「一年物のしぼりたて」です。写真④はメインイベントの自分の醤油仕込みの様子。醤油に名前を付けて、容器の中に麴と塩水を入れてシャバシャバ混ぜます。実習は、それだけ(笑)後は、持ち帰って一日一回振ること！一年後の出来上がりが楽しみです。また報告致します。

文・写真/へそくん



写真①



写真③

写真②



写真④

一万六千歩の旅

おとき

(「叢」22号より)

今日私は、一週間後のウォーキングのため、コースの下見に出かけた。枚方を朝9時過ぎの京阪特急に乗り、10時前に出町柳駅に着いた。

「次回は吉田山に登りたい。そして、茂庵へいきたい」という一人の提案にグループのみんなが賛同したからである。

出町柳の駅を出て、加茂大橋を背にして今出川通を東進すれば、吉田山の登山口だ。鳥居をくぐると両サイド樹々に覆われた中に緩やかな一本の坂道が伸びている。いきなり緑の林の中に入り込んだようで、思わず大きく深呼吸をする。暫く登っていくと、登りきる少し手前に吉田神社への分かれ道があるが、私は反対の道をたどる。

「茂庵」と「頂上広場」へとコースを示す案内板があった。まもなく、右手に杣小屋を改良したような建物があったが、誰もいるようには見えなかった。素通りして頂上広場に着いた。目の前に見える大文字山を見ていると「あ、誰か登っている」と独り言のように言う声が後ろから聞こえた。振り向くとポール2本を持った年配の方だ。「ほんとだ、動いてますね」と、かすかに動く点を認めて、私も自然に応える。そして、以前からのウォーキング仲間のように会話が続いた。

彼は今年6月に背骨を骨折して三か月の入院加療を経て、今はリハビリに専念しているという。ポールは山用のポールでノルディック用ではな

い。しかし、術後のリハビリには、ポールを持って歩くことが理にかなっていると思ったそうだ。今では奥さんと交代で食事作りもやっていると言う。

背骨という身体の大黒柱を骨折したというわりには足取り、姿勢はしつかりとしている。歳を聞いてみると76歳だそうだ。歩くこと、食事を作ることを今の自分の生活の中心に据えていると聞き、私は嬉しくなった。

市内に住んでいらつしやるようで、年輪を感じさせるやさしい喋り方は、「京都のお人」らしい。彼の散歩は、私の下見のコースと同方向らしく、彼は「ではそこまでご案内しましょう」という。素直に頷き、下見ウォーキングは地元案内人を得て、「真如堂」を経て「金光光明寺」を巡ることになった。

秋には紅葉の美しいこと、写真映えのする所、幕末の会津藩士のこと、容保のこと、幕末のこと、大河内伝次郎の映画のこと、そして、満開のフジバカマについての話など多岐にわたったがどれも楽しく、会話が弾んだ。

真如堂を抜けて、大通りに出ると、心からのお礼を言っ、彼が乗るバス停で別れた。その後、私は平安神宮を通り抜け、先輩の写真展会場のある四条通りのギャラリイまで足を延ばした。

ちょうど先輩は「お当番」であるらしく、会場で迎えてくれた彼は、根っからの京都人である。90歳を過ぎてもカメラを持ち、地元の「歩こう会」のリーダーもやっている。展示写真の解説も

ニコニコ顔でしてくれてお元気そうだ。

今でも「ちゃん」付けで呼んでくれる唯一の先輩と会場出口で、「ずっとお元気だね」と言って別れた。

いい旅をした後のようなスカツとした気分です。帰路に就いた。うちに帰り、歩数計を見ると一万六千歩を超えている。

健康目的で歩くのもいい。しかし、そこに「楽しさ」が加わればもつといい。気持ちよく歩いた後のほくほくとした心楽しさは「また、歩きたい」という活力を生み出す。日頃のこんな積み重ねが元気の素になるのではなからうかと思う一日であった。

今号から、作品集「叢(くさむら)」から許可を得て、LIPへ転載させていただきます。1回目は、筆名「おとき」さんの作品です。「叢」は二〇〇四年、枚方市の「生きがい創造学園」エッセイ入門講座修了生が立ち上げた文芸サークルです。現在は、会員数十二名、ステーションヒル枚方五階の生涯学習交流センター・集会室にて、毎月第四水曜日に例会が開かれています。年刊の作品集「叢」は枚方市立中央図書館に所蔵されています。(LIP編集部)

イベント・サークル・ボランティア情報

【削ろう会 全国大会 第41回 大阪 交野大会】

日時：4月12日(土) 9:30~16:00
 一般見学 11:00~16:00
 4月13日(日) 8:30~16:00
 一般見学 10:00~16:00

場所：いきいきランド交野
 (交野市向井田2丁目5?1)
 JR学研堺駅線「河内邊野駅」より歩約15分
 京阪電鉄「交野駅」より歩約20分
 参加費：見学や体験は無料(一部有料)

4月12日(土)
 08:30 出展受付・搬入
 09:30 開場・競技者受付開始
 11:00 開会式
 11:30 薄削り・五寸鉋 予選開始
 16:00 薄削り1日目計測終了
 メインアリーナでは、14時から、
 「土田昇氏講演会 古の名品をひも解く〜逸話と実演〜」開催予定
 4月13日(日)
 08:30 開場・受付開始
 09:30 大会記念集合写真
 09:45 薄削り予選開始
 13:00 予選終了
 13:30 各部門決勝
 15:30 表彰式・閉会式

カンナ削り体験、カンナ屑プール、myお著作、左官体験等、おとなも子どもも楽しめるイベントが盛りだくさんです。

心理カウンセラー養成講座 ～講座体験・講座説明会～

対人援助やカウンセリングに必要な基礎的なスキルを学べます。

◆日時 4月16日(水) 10:00~11:30 第7会議室
 4月23日(水) 10:00~11:30 第5会議室
 4月23日(水) 19:15~20:45 第5会議室

◆場所
 枚方市総合文化芸術センター別館
 ◆参加費：無料
 ◆定員：各15名
 ◆申込・問合せ先：NPO法人京阪総合カウンセリング
 TEL 072-814-7140
 メール jim@npk-ksc.net
 http://www.npo-ksc.net

【枚方自閉症児(者)親の会】

自閉症だけでなく生きづらさを感じながら生きている人、その保護者や関係者の方々。どうぞフリートークでご参加ください。話すことにより、何か新しいことに気づけるかもしれません。

◆日時：4月28日(月) 10:00~12:00
 5月26日(月) 10:00~12:00
 ◆場所：ラポールひらかた 4階共用ルーム
 ※連絡先 春名 072-397-0053 三浪 072-868-9929

応援ありがとうございます♪

LIP応援団

沖野純子さん

LIP会計報告 (前号以降)

金額(円)	内容
37,972	前号から繰り越し
4	銀行利息
1,000	遺稿集1冊
2,000	応援団寄付
▼3,872	4月号用紙代
▼500	ロッカー代
▼1,270	3月号印刷代
▼965	郵送代
32,369	計(次号へ繰り越し)

STOP WAR NOW LOVE & PEACE

◆先月号に掲載した「作らずにはいられない～京阪電車の通過時刻を表示する」ですが、「こんな装置は、たぶんどこにも無いよな。需要はたぶん、ほぼほぼ無い。あ、でも、窓から電車が見える、うちと同じような立地の家なら、使えなくはないかな」と書いたのですが、その後、思いついてしまいました。枚方モールの「でんしゃみち」。あそこならまさにぴったりでは？ またまた思いついたら作らずにはいられない症候群発症です。(w)

◆LIPは市民が書き、市民が読む地域密着型情報紙です。あなたも紙面に登場してみませんか？

イラスト 表紙：平井由恵



【ひらつーパートナー・ライト】

月額 5,610円

詳しくはコチラ➡➡

